

今号は、先日無事終了しました“ふっこうのかけ橋” 2018に参加されたお母さん方から原稿を頂きました。暑さのピーク時に開催されたプログラムでしたが、子ども達もお母さん方も、神戸でのひとときを満喫されたようです。

皆様の温かいお心遣いに深く感謝します。今回は国宝姫路城や、大人は京都までご案内いただき、関西を満喫しました。子供たちも有名な六甲山に神戸の子供たちと一緒に登り、寝食や遊びを共にしたのは、成長する心の大きな糧になったでしょう。震災から復興した神戸とそこで暮らす皆様に励まされ、心の目が開かれ、未来に向かう希望をもらいました。広島に世界で最初の原爆が落とされた日であり、今年の平和旬間のはじまりである8月6日がキャンプ最終日であったことも、福島で生活する私達にとり、とても意味深いことでした。世界のすべての人々と話し合い、手を取り合って平和な世の中を築かねばなりません。そのことを神戸で学ばせていただきました。
佐々木 穎美



5日間本当にありがとうございました。発熱後すぐだったこともあり参加させるが迷いましたが、お言葉に甘えさせていただき感謝いたします。

帰ってきた息子はどことなく自信がついたように見えます。教会のお御堂が素晴らしかったこと、カヌーやキャンプファイヤーのこと、たくさん教えてくれました。とても良い経験ができたようで、良かったです。
(K. A.)

こんにちは。

神戸滞在中は、親子で大変お世話になり沢山のおもてなしに感謝、感激でした。(^_^) 帰路、仙台空港に降り立つと雨が降り、気温は20度以下でした。

さて、「ふくしま通信」への原稿の依頼を受けて、私達が暮らす南相馬市についての現状を少し書かせて頂きます。

南相馬市は太平洋側に沿った南北の細長い市で、北から鹿島区、原町区、小高区と並んでいます。北接する相馬市では、震災後8年ぶりの海開きがニュースになり、鹿島区の沿岸部では、風力発電の大きなプロペラ4基による電力の供給も始まりました。

また大手スーパーは開店時間が短いながらも営業を再開、車が使える人には不自由感は減少しているようです。また運転しない人達のために、週3回のシャトルバスや600円タクシー等の新しい取り組みも始まり不便解消の手立ても始まっています。小高区は、帰還者が少なく車も店もまばらです。閉店や撤退した店舗・病院等が多く、子どものスポーツ用品を買うために市外・県外にまで行くこともあり、病院も絶対数が不足しているため、常に混雑し同じように市外・県外まで受診のために行く人もあると聞いています。娘が通う小学校では、震災後8年目を迎え、校庭の土を入れ替えたこともあり運動場の使用制限がなくなりました。

プールも再開していますが震災後、外遊びの出来なかったある年代の子ども達には、自転車に乗れない子どもが結構いるという現象が起きています。除染が進み、除染土の一部は双葉町の間貯蔵施設に運ばれたり、公共工事での再利用が検討されていますが、JR常磐線は南の浪江駅～富岡駅間、約20キロが不通のまま、復興現在進行形といったところです。
(M. I.)